

2023 年度

博士論文（要約）

（指導教員：本橋哲也 教授）

論文題名 中国アヴァンギャルド・アートに関する研究

英文題名 Research on Chinese Avant-garde Art

東京経済大学大学院

コミュニケーション学研究科博士後期課程

目次

序論

中国アヴァンギャルド・アートに関する研究

研究背景

研究目的及び研究対象

研究意義

先行研究

論文の構成

アヴァンギャルド・アート前史

第一章 西洋と中国におけるアヴァンギャルドの定義

はじめに アヴァンギャルド定義の再考察

第一節 西洋におけるアヴァンギャルドの定義

1-1 芸術分野におけるアヴァンギャルド概念の初登場

1-2 政治と芸術の間で揺れ動いたアヴァンギャルド

第二節 中国におけるアヴァンギャルドの定義

第三節 アヴァンギャルドの特徴

3-1 ホセ・オルテガ・イ・ガセット

3-2 ペーター・ビュルガー

3-3 レナート・ポッジョーリ

3-4 クレメント・グリーンバーグ

3-5 アヴァンギャルドの特徴

おわりに

第二章 無名画会—中国のアヴァンギャルド・アートの起源

はじめに 中国のアヴァンギャルド・アートの起源

第一節 無名画会の概況

1-1 無名画会のメンバー—疎外された青年たち

1-2 無名画会のスタイル—私的な風景

1-3 無名画会の展覧会—無名美展

第二節 無名画会とバルビゾン派の比較研究

2-1 無名画会とバルビゾン派の関係

2-2 構成メンバーの生い立ちとアマチュアの側面

2-3 流派が誕生された経緯

2-4 芸術理念

2-5 まとめ

第三節 無名画会のアヴァンギャルド性

3-1 独創性

3-2 抵抗性

3-3 先見性

第四節 アヴァンギャルドのもう一つの可能性

4-1 西洋アヴァンギャルドの終焉

4-2 中国の伝統文化に基づくアヴァンギャルド

おわりに 静かな反抗—アヴァンギャルドのもう一つの可能性

第三章 四月影会—アヴァンギャルド・アートの多様性

はじめに 中国のアヴァンギャルド写真

第一節 文化大革命時代までの中国写真史

第二節 四月影会の誕生

第三節 四月影会の写真展

3-1 第一回「自然、社会、人」写真展

3-2 第二回「自然、社会、人」写真展

3-3 第三回「自然、社会、人」写真展

第四節 四月影会の解散

第五節 四月影会のアヴァンギャルド性

5-1 中国絵画風写真の継承

5-2 ドキュメンタリー写真への初の試み

5-3 コンセプチュアル写真の初の試み

5-4 女性写真家の参加

おわりに 中国アヴァンギャルド・アートの多様性

第四章 星星画会—アヴァンギャルドが政治に介入する

はじめに アヴァン・チャイナの夜明けの「星」

第一節 民主の壁と北京の春—星星画会が誕生した社会的背景

第二節 星星画会の成立—美術と文学の交流

第三節 第一回の星星美展

第四節 星星画会の抗議デモ

第五節 第二回の星星美展

第六節 星星画会の解散

第七節 星星画会の作品分析

7-1 黄銳

7-2 馬德昇

7-3 王克平

7-4 李爽

第八節 星星画会のアヴァンギャルド性

おわりに 熱血勇者の歴史

第五章 85 美術運動—文化としてのアヴァンギャルド・アート

はじめに 星星画会の後継者

第一節 中国初の美術運動と社会背景

1-1 なぜ「美術運動」なのか

1-2 文化熱と哲学熱—85 美術運動の社会背景

第二節 85 美術運動の序章

2-1 第 6 回全国美展—プロパガンダの復活

2-2 黄山会議—創作自由の前哨

2-3 国際青年年美展—青年芸術家の登場

第三節 理性絵画

3-1 理性絵画の概念

3-2 北方芸術群体

3-3 舒群

3-4 王広義

第四節 生命の流れ絵画

4-1 生命の流れの概念

4-2 西南芸術研究群体

4-3 毛旭輝

4-4 張曉剛

第五節 中国におけるダダ

5-1 ダダの中国版

5-2 アモイダダの芸術活動

5-3 黄永砵

第六節 85 美術運動における他の芸術団体の紹介

おわりに 文化としてのアヴァンギャルド・アート

第六章 89 年現代芸術展とその後のアヴァンギャルド・アートの展開

はじめに ユートピアの終焉と新時代の幕開け

第一節 中国現代美術が展開する経緯

1-1 難航した展示会の準備過程

1-2 パフォーマンス・アートの「七つの大罪」

第二節 自由時代の終わり—天安門事件

第三節 ポリティカル・ポップ—中国風ユーモア

第四節 シニカル・リアリズム—自虐的な無頼漢

第五節 北京の東村のパフォーマンス・アート—肉体の反乱

第六節 フェミニスト・アート—女性意識の目覚め

おわりに ユートピアの終焉とアヴァンギャルドの転向

第七章 中国におけるアヴァンギャルドの意味

第一節 西洋におけるアヴァンギャルドの意味

第二節 中国アヴァンギャルド・アートの特徴

第三節 西洋芸術が中国アヴァンギャルド・アートに与える影響

3-1 ダダ—艾未未、黄永砵

3-2 ポップアート—王広義、余友涵

3-3 フォト・ペインティング—張曉剛

3-4 表現主義—曾梵志、毛焰

3-5 ヴィデオ・アート—張培力、楊振中

まとめ

第四節 中国アヴァンギャルド・アート弱化の理由

4-1 アヴァンギャルドの資本主義化—キツチュ

4-2 アヴァンギャルド・アートのナショナリズム化

4-3 新しい断層と西洋への学習の終了

まとめ

第五節 中国におけるアヴァンギャルドの意味

第八章 中国アヴァンギャルド・アートの未来と可能性

第一節 中国アヴァンギャルド・アートの現在

第二節 中国アヴァンギャルド・アートの未来と可能性

参考文献一覧

謝辞

序論

中国では長い暗黒の時代であった文化大革命が1976年に終わりを告げ、それまでの文化的鎖国状況から、海外の新しい美術が少しずつ流入するようになった。その後の80年代は、政治的には解放に向かいながらも、商業化の圧力はまだ到来していない空白の時期でもあった。こうした時代背景で、中国アヴァンギャルド・アートが誕生した。80年代以来、中国のアヴァンギャルド・アートは国際芸術界で頭角を現し、大きな成功を収め、海外で大きな反響を得たと同時に、アヴァンギャルドという概念も新たに注目され、世界中に再評価されるようになった。その反面、中国のアヴァンギャルド・アートは世界からの注目を浴びているが、アヴァンギャルド・アートの体系的な研究はまだ少数である。本研究では、中国現代アートの歴史的な変遷をたどりながら、中国におけるアヴァンギャルドの意味について探ることを目的とする。そして、アヴァンギャルド・アートに中国社会の文脈下での意義を持たせ、中国アヴァンギャルド・アートの将来の発展と隠れた可能性について検討する。

第一章 西洋と中国におけるアヴァンギャルドの定義

第一章の目的は、西洋と中国のアヴァンギャルドに対する異なる観点を整理し、多くの観点の中で、アヴァンギャルドが持つ共通点を抽出し、アヴァンギャルド・アートを判断する基準を明確にする。第一章では、西洋と中国におけるアヴァンギャルド理論の起源とその後発展プロセスを整理し、どのような作品はアヴァンギャルド・アートとして見なされているのか、アヴァンギャルド・アートの特徴とは何か、西洋と中国における「アヴァンギャルド」の定義を明らかにする。筆者はホセ・オルテガ・イ・ガセット、ペーター・ビュルガー、レナート・ボッジョーリ、クレメント・グリーンバーグ、以上のアヴァンギャルドの理論に大きな影響を与えた4人の理論家の理論についてまとめ、分析し、アヴァンギャルドの共通項（特徴）を明らかにした。すなわち、独創性、抵抗性、先見性であり、アヴァンギャルド・アートといえる作品には以上のような3つの特徴がある。

第二章 無名画会—中国のアヴァンギャルド・アートの起源

第二章では、西洋社会におけるアヴァンギャルド芸術の特徴を明らかにした上で、無名画会は現代中国アヴァンギャルド・アートの起源との関係を明らかにすることである。無

名画会が掘り下げられていくにつれ、中国のアヴァンギャルド・アートの起源が問われることになる。アヴァンギャルドの最大の特徴は伝統に反対し、すべての古い制度を覆すことである。ところが、中国のアヴァンギャルドの目的は転覆そのものだけではなく、権威とキツチュに屈しない自由精神を重んじるためでもある。文化大革命時代には、昔の文人の風習や荘子と禅の思想を歴史のゴミとして批判し、無情に抑圧していたが、無名画会の芸術家たちは依然としてこのような古い伝統を継承していた。無名画会の芸術家たちは当時の主流文化から遠く離れ、独立に考え、自分の理想を堅持し、「疎外された」地位を守ろうとした。無名画会は「歴史的アヴァンギャルド」のように、すべての伝統芸術や文化に反対するのではなく、伝統文化を継承しつつ新しいスタイルを創り出した。従って、無名画会は中国社会という文脈において、アヴァンギャルドのもつ意味と新たな可能性を示したと言える。

第三章 四月影会—アヴァンギャルド・アートの多様性

第三章では、70年代末に北京に四月影会という民間の写真団体を研究する。四月影会は中国のアヴァンギャルド写真芸術の始まりであり、中国の現代写真の起源でもある。四月影会の存在は、中国アヴァンギャルド・アート芸術形式の多様性を表現しただけでなく、中国のアヴァンギャルド・アートの不運な運命をも表している。そして、四月影会の解散から、中国のアヴァンギャルド・アートが徐々に影響力と批判力を失っている原因をうかがい知ることができる。四月影会は中国アヴァンギャルド写真の始まりであり、中国現代写真の序幕を開いたと言える。四月影会の写真家たちの芸術実践と探求は、文化大革命直後の社会環境の中で、間違いなく強いアヴァンギャルド性を持っていた。このアヴァンギャルド性は、中国社会の独自性を背景にし、中国の芸術の発展と変革の先駆者でもあった。四月影会の作品の芸術価値は、作品の美的水準を超え、作品が表現しているアヴァンギャルド精神そのものにある。

第四章 星星画会—アヴァンギャルドが政治に介入する

第四章では、80年代中国社会の政治的な背景と結びつけて星星画会を全面的に分析し、星星画会の芸術活動を当時の中国の文学運動と結びつけ、また、星星画会の活動状況を紹介

した上、星星画会の作品を分析する。さらに、星星画会の精神と中国のアヴァンギャルド・アートへの影響を明らかにしていく。星星画会は、社会、政治、文化への独特な批判視点を持っており、形式の自由と人間の尊厳の回復を強く求めていた。これらの芸術家たちは、芸術を社会のツールとして使う考えや、政治の功利的な立場には反対し、新しい芸術的表現を追求し続けた。彼らは単に作品を作るだけの芸術家ではなく、行動する芸術家でもあった。彼らの行動は、現代の民主化運動の礎ともなっている。今日の中国アヴァンギャルド・アートの反抗的な精神と創造的な意志は、星星画会に代表されると言える。

第五章 85 美術運動—文化としてのアヴァンギャルド・アート

第五章では、1980年代におけるエリート主義運動の一つである85美術運動について取り上げる。85美術運動に参加した芸術家たちは、星星画会の勇気だけでなく、あえて伝統を破り、西洋美術の精神と表現を学び、西洋モダニズムと西洋哲学によって中国の伝統文化と芸術を見直し、アヴァンギャルド・アートを通して、新しい文化を創造することに志した。85美術運動はどのような新しい芸術観念と芸術形式を提唱したのかを明らかにする。星星画会以降、中国のアヴァンギャルド・アートは、自由と民主といった政治問題とイデオロギーと密接に結びついた新しい文化的メタファーを生み出すツールへと急速に発展していった。芸術家たちも、自分が過渡期、変革期であることを自覚し、歴史的使命感を強く持っていたからこそ、作品には犠牲的責任感や悲壮感が自然に漂っているのがあった。85美術運動に参加した芸術家たちは、アヴァンギャルド・アートを文化に変えようとした。思想の解放は文化であり、文化は思想の解放である。中国現代アヴァンギャルド・アートに真の現代性を与え、中国現代アヴァンギャルド・アートが次第に国際と結びつくように推進されたのが、85美術運動であった。

第六章 89 年現代芸術展とその後のアヴァンギャルド・アートの展開

第六章では、1989年の現代芸術展および89年以降に出現したアヴァンギャルド・アートを研究対象とする。89年6月に起きた天安門事件は、一つの時代の終結を意味していた。その終結は、80年代文化をとりまく外的条件の変化によるだけではなく、80年代文化それ自体の内部的限界によって招き寄せられたものであった。本章では、天安門運動の後

に誕生したポリティカル・ポップ、シニカル・リアリズム、パフォーマンス・アートとフェミニスト・アートの特徴、また芸術家たちはアートを通して何を表現しようとしているのかを明らかにする。80年代と対照的に、90年代のアヴァンギャルド・アートは、理想主義の色合いが薄れ、大きな美術運動や集団の興奮として表れることは少なくなった。また、批評家たちのリーダーシップ的な影響は減退した。80年代より、90年代のアヴァンギャルド芸術家たちが中国での展示や発表がより困難になった一方で、生活水準の向上と共に、彼らの生活や創作の環境は逐次良くなった。中国での発表の場は減ったが、国外での機会は増え、外国のキュレーターたちの来訪や、中国の芸術家への国外展示の招待が増加した。これにより、80年代の隔絶した状態は変化し、中国の芸術家は国外の動向やシステムを深く理解するようになった。これは、中国の芸術家がより国際的な視点を持つようになったことを示している。90年代の芸術の特色は、異なる時代を繋ぐ役割を果たし、社会の商業化の中で芸術家たちの精神的な結束が弱まり、社会の関心も失われた。しかし、この変化により、90年代の芸術はより個人的な方向へと進み、表現の言語性に焦点を当てるようになった。90年代後半、中国アヴァンギャルド・アートの影響力は大きく落ちたが、これは成熟への一歩としての重要な変化点だった。

第七章 中国におけるアヴァンギャルドの意味

第七章では、本研究の知見を整理し、序論で投げかけられた質問を回答し、結論を述べ、中国という社会文脈の中で、アヴァンギャルドの意味を明らかにする。また、今後の課題について展望し、現在の中国の社会状況の分析を通じて、中国アヴァンギャルド・アート研究の重要性と思想価値を再確認する。

アヴァンギャルドという概念は西洋で生まれたもので、中国に伝わったときも、その基本的な意味である反抗や疎外性といったものはそのまま残されていた。文化大革命の波乱に終結後、中国政府と国民は多くの複雑な問題に直面することになった。当時の中国では、最も解決しなければならなかったのは、政治的な混乱と民間の思想解放であった。その結果、若い芸術家、体制外の芸術家、アマチュア芸術家たちが思想解放の先頭に立ち、彼らの作品は明らかに政治批判的で、体制に反抗的であり、同時に非常に前向きであった。彼らは西洋の美術様式や造形をある程度模倣しながらも、その模倣は、当時主流であった革命的リアリズムなどの政治的実用主義的な美術様式に対する挑戦や嘲笑でもあった。オリジナリティはな

いものの、当時この国を支配していた政治勢力に抵抗し、それを乗り越えて民主と自由を追求しようとした点で、これらの芸術家や作品は「アヴァンギャルド」の名にふさわしいものであることは確かである。

无名画会と星星画会の時代から、中国アヴァンギャルド芸術家は国家独裁と思想統制に対抗し、民主と自由のために戦ってきた。これも中国の30年のアヴァンギャルド・アートの特徴と使命、すなわち政治、社会、文化の反抗と批判である。このような批判機能は中国の近代化の背景に置いてこそ意味があり、それはある芸術がアヴァンギャルドかどうかを判断する中国の基準でもある。

第八章 中国アヴァンギャルド・アートの未来と可能性

第八章では、アヴァンギャルド芸術家へのインタビュー調査である。アヴァンギャルド・アートの創作に携わってきた3人の中国人芸術家取材し、彼らの考えに基づいて中国アヴァンギャルド・アートの将来の発展傾向と隠れた可能性を推測した。また、インタビューを通じて、芸術家はアヴァンギャルド・アートの定義や創作に対する見方を明らかにする。インタビューの結果は、本研究の結論を裏付けるものとして活用できる。

中国アヴァンギャルド・アートの使命は社会問題を表現することであり、反抗にあり、民主と自由を追求することにある。星星画会のような直接反体制の芸術創作を行う芸術家は、政治風刺漫画を描くことで知られる80代の青年芸術家バディウツァオのように、海外で活動している。しかし、より多くのことは、芸術家が現在の中国の政治と社会に対する自分の気持ちを表現するために、比較的柔軟で、内に収まり、隠蔽的、あるいは私的な方法で表現することである。これが中国アヴァンギャルド・アートの解読方法のもう一つであり、あるいは、現在の中国アヴァンギャルド・アートが発見されていない可能性は、これらの極度に個人的で、多様で、多様な価値観、さらには政治的な作品に埋蔵されていると考える。